

「名勝水郷柳河」主要川下りコース沿いにおける
夜間景観基本計画

－概要版－

城下町の構成と白秋の詩歌の世界を体感する夜間景観ストーリー

令和2年3月

柳川市

計画の趣旨

計画策定の目的

柳川市では、平成24年に「柳川市景観計画」「柳川市景観条例」を定めて各地域の景観形成に取り組んでいるが、今後さらに地域景観の質の向上を目指すには、昼間だけでなく夜間の景観についても積極的な取り組みが求められる。

人が過ごす時間の半分は夜間であり、特に昼間人口よりも夜間人口が多い柳川市では、市民が地域で過ごす時間をより豊かにするために夜間景観の質の向上が重要な課題と言える。また、現在日帰り客中心の柳川観光において、滞在時間の延長、宿泊客数の増加による経済効果の拡大を実現するためにも夜間の魅力ある資源を充実させていくことが有効である。

こうした観点から本基本計画では、夜間景観の質の向上に取り組むモデル的なエリアとして、国の名勝に指定された「水郷柳河」をめぐる「主要川下りコース沿い」を対象とし、夜間景観の目指す方向性、実現イメージ、実施体制を示している。

夜間景観の質の向上が、柳川市民の「ふるさとの風景」、柳川を訪れた方の「思い出の風景」をより良いものとしてかたちづくり、これからも柳川が愛される地域であり続けることが、本基本計画が目指す未来である。

対象エリア

「名勝水郷柳河」における主要川下りコースとその周囲の公共施設、民有地を対象とする。

対象行為

対象エリアにおいて行われる以下の行為は、本基本計画に従って行うこととする。

- ① 柳川市等が行う公共事業
- ② 「柳川市景観計画」の届出対象行為
- ③ イベントや観光事業
(ただし、短期間のイベントは対象外とする)

策定プロセス

本計画の策定にあたっては、柳川の夜間景観の良いところ（英雄）と改善すべきところ（犯罪者）を探す市民ワークショップ「柳川照明探偵団」を、船上からの視点で1回（2019.5.9）、陸上からの視点で1回（2019.6.10）の合計2回開催した。

そこで得られた意見を踏まえて、柳川市、九州大学、（株）ライティングプランナーズアソシエーツで計画案を策定し、さらに、市民ワークショップ（2019.12.12）、パブリックコメントを実施し、得られた意見を反映させて計画とした。

夜間景観のコンセプトと12のシーン

城外から柳川城水門（城堀水門）を経て城内に入り、再び城外の沖端に出る川下りコースを城下町の構成をもとに12のシーンで紙芝居（ストーリー）的に構成する。

紙芝居（ストーリー）を「演出するシーン」「静かなシーン」「アイストップ」で構成し、それぞれのシーンにおいて北原白秋の詩歌の世界を体験できるように夜間景観を創出する。



図 主要川下りコースの夜間景観を構成する「12のシーン」

コンセプト

「静かで優しい光」

白秋の詩情を思い起こさせるような、静謐で風情のある夜の景色をめざす。華美な照明やまぶしさのある照明は用いず、あたたかみのある優しい光を丁寧に計画する。

静謐…静かで穏やかな様子。

「水を感じる光」

柳川らしきの原点でもある水路のある景色を、夜にも感じられるように、映り込みや反射といった、水と光が会って生まれる表情を大切に照明計画を行う。

ストーリー 「光の紙芝居」

川下りコースに沿って、絵になるシーンをつくる。紙芝居のようにそれらの景色をつなげていくことで、柳川にしかない、物語性のある夜間景観をつくる。

次ページより、各シーンの整備方針を示しています。

1 鋤先土居（すきさきどい）

白壁の薄あかり / 静かなシーン



- 1 水面に映り込む光の要素を整え、豊かな水の景色を意識させる。
- 2 アイストップとなる古文書館の存在を見せる。
- 3 各照明の色温度を統一し、一体感を感じられるようにする。

2 柳川城水門

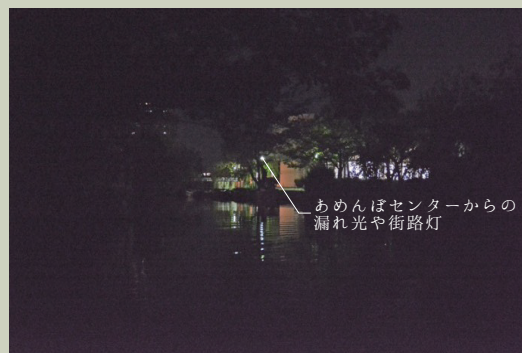
城郭の入口の厳かさ / 演出するシーン



- 1 アイストップでありゲートとなる水門まわりを印象的に照らす。
- 2 水門の横にあるポケットパークの緑を感じさせる。
- 3 各照明の色温度を統一し、一体感を感じられるようにする。

3 柳河町

ぼんやりと眠らすひたひたと光る / 静かなシーン



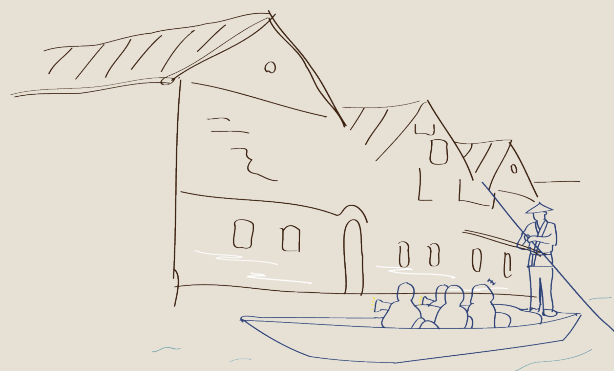
- 1 アイストップとなっているあめんぼセンターは、引き続き何らかのかたちで照らす。
- 2 橋の下や汲水場の周囲を、場所によってはもう少し明るくしてもよい。
- 3 民有地からの明かりが光の主要素となるので、漏れ光が優しい明かりになるよう、直接光源を水路側に向けない、色温度に配慮する等、近隣住民等の協力が得られるとより望ましい。

4 並倉

水かけろう / 演出するシーン



- 1 川下りの乗船客にセルフライトアップをうながし、白秋が詠んだ「水かけろう」などの体験をする夜の見どころとする。
- 2 直接光を当ててるのではなく、一度水面に反射させることで、船が進む水面のゆらぎを映出することができ、印象的な光の体験となる。



セルフライトアップのイメージ

5 御家中へ

樹林の門 / 演出するシーン



- 1 船上と陸上双方の視点を考慮し、いずれに対してもまぶしさがないように、グレアカットを施す（光源が直接目に入らないようにする）などライトアップ手法を見直す。
- 2 豊かな樹木が頭上を覆う様子が美しいシーンとなるので、照明によって演出するのは水面よりも樹木を対象とする。
- 3 奥の樹木のライトアップの印象を損ねないように、水面に輝度の強い照明は設置しない。
- 4 水面に照明を設置する必要がある場合、昼間に周囲の景観と調和するように十分に配慮する。

6 散歩道 その1

この道 / 静かなシーン

① 袋町～本町～坂本町

- 1 歩行者用フットライトの輝度を抑える。
- 2 船からもまぶしくないように配慮する。
- 3 心地よく歩けるよう、適切な照度と明るさ感を確保する。
- 4 歩行者用フットライトの間隔が広すぎて、間が暗いため、歩行者が歩きやすいようにもう少し詰めて配置する。
- 5 街路灯の色温度を電球色にそろえ、かつ、まぶしさが無い灯具とする。
- 6 水路沿いの樹木（柳）や対岸の明かりなど、鉛直面を照らす明るさがあるとよい。
- 7 フットライトの光や、樹木などを照らす光は、水面への映り込みを意識する。



6 散歩道 その2

この道 / 静かなシーン

② 城跡と境内林



- 1 心地よく歩けるよう、適切な照度と明るさ感を確保する。
- 2 歩行者用フットライトの輝度を抑える。
- 3 あずまやなどのポケットパークの要素を照らす。

8 中堀(なかぼり)

揺籠(ゆりかご) / 静かなシーン



- 1 演出的なライトアップは行わないが、水面に映り込む要素となる街路灯やフットライトなどを丁寧に整える。
- 2 親水空間となるポケットパークに明かりを与える。

7 弥兵衛門橋・十時邸

待ちぼうけ / 演出するシーン



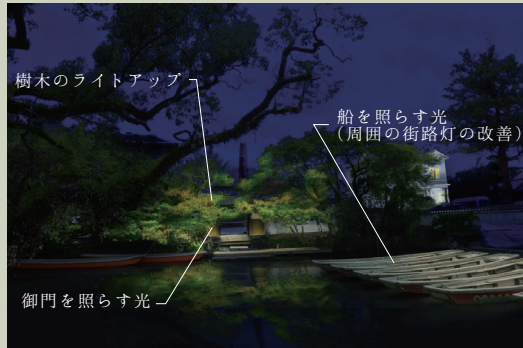
- 1 水面にも映り込む光の要素を与え、華やかな景色をつくる。
- 2 弥兵衛門橋や田中吉政公の銅像などの歴史的モニュメントを、印象付けるように適切に照らす。



9 御花北

藩主休息の場 御花畠 / 静かなシーン

① 御花北門



- 1 御門や周囲の樹木を照らし、闇から浮かび上がらせる。
- 2 周囲の道路照明も、色温度を統一して雰囲気をよくする。

② 大沢橋



- 1 大沢橋と周囲の樹木のライトアップを行い、闇から浮かび上がらせる。
- 2 周囲の道路照明も、色温度の統一を行って雰囲気をよくする。

10 御花東

深い森 / 静かなシーン



- 1 自然のままの夜の暗さを損ねないように、水面に輝度の強い照明は設置しない。
- 2 水面に照明を設置する場合は、昼間に周囲の景観と調和するように十分に配慮する。
- 3 民間施設の窓明かりが、統一感のあるやわらかい明かりになると望ましい。(電球色での統一、カーテン等により光源が直接見えていない等)

ふるさとの合歡の木かけを
ながれゆく水の音なり。
鵲のしろき下羽根、
月の夜と移る空なり。
おごろなし、おもほえば、そは
眉に立つかげろふのごと。
童みな鵲を追ひ、
鵲と影をうしなふ。
【水の構圖 鵲より】

林泉や夏
この夜浅きに
水にいて
月の光を
潜くものあり
【水の構圖 浅夜より】

1 1 御花南



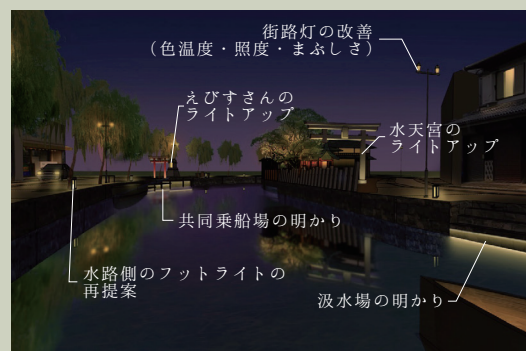
龍銀（ろうぎん）の光 / 演出するシーン

- 1 船上と陸上双方の視点を考慮し、いずれに対してもまぶしさがないようにする。
- 2 経年によってスポットライトの向きが変わったり、落ち葉に埋もれたりしないよう、維持管理を確実に行う。
- 3 出逢い橋が照らされていると、緑のなかで非常に印象的なアイストップになる。適切なライトアップが行われると望ましい。
- 4 民有地の照明は、陸上だけでなく、船上からもまぶしくないような配慮がされると望ましい。また、色温度は統一されることが望ましい。

1 2 冲端



- 1 街路灯は改善し、柳を照らす光の要素とする。
- 2 殿の倉のライトアップを行い、アイストップとする。
- 3 水路側のフットライトは、水面に映り込む光の要素として再提案する。
- 4 店舗側へもフットライトを設置することで統一感を演出する。
- 5 まちなみを見せるとともに歩行者へ安心感を与える常夜灯(店舗などからの漏れ光)を推奨する。



- 1 街路灯は改善し、柳を照らす光の要素とする。
- 2 水天宮のライトアップを行い、沖端の夜の景色を印象付ける。えびすさんの鳥居もライトアップを行う。いずれも水面への映り込みも意識する。
- 3 水路側のフットライトは、水面に映り込む光の要素として再提案する。
- 4 共同乗船場や汲水場は、段下に間接照明を設置し、水際線を見せる。

以上が、主要川下りコースの夜間景観を構成する「12のシーン」それぞれの整備方針です。

夜間景観形成基準

- 1 「色温度」の低い照明を用いる。
- 2 緑、石積み、まちなみ、人々の表情が豊かに見える「演色性」の高い照明を用いる。
- 3 道、船等から見たまぶしさ（グレア）のない快適な光環境をつくる。
- 4 点滅・動き・派手な色等の過度な演出のない安心感のある光環境をつくる。
- 5 昼間の景観を損なうことがないように照明器具を設置する。

1 「色温度」の低い照明を用いる。

色温度とは

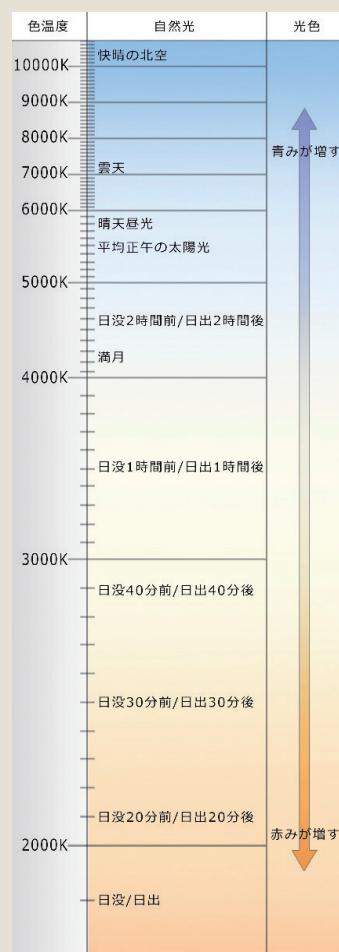
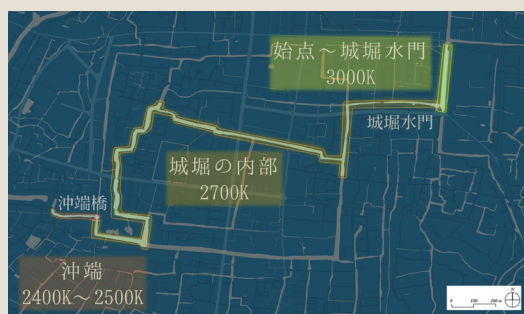
光源固有の色味を表す数値。

色温度が低いほど暖色系の光、色温度が高いほど寒色系の光となる。単位にはK（ケルビン）が用いられる。

人は色温度の高い光（昼の自然光のような光）の下では高揚感や緊張感を感じて活動的になり、色温度の低い光（暖かみのある光）の下では安らぎや高級感をおぼえてリラックスすることが判明している。

色温度の基準

- ・ 公共で整備する照明は基本的に城堀水門周辺を3000K、城堀を2700K、沖端を2400～2500Kとし、沖端にいくにつれて色温度がより低くなっていくように整備する。
- ・ 民間照明は、公共照明の色温度基準に合わせることが望ましい。光源の細かな選定が難しい場合でも、電球色（3000K）を採用する。



2 緑、石積み、まちなみ、人々の表情が

豊かに見える「演色性」の高い照明を用いる。

演色性とは

光源による色の見え方（再現性）の良し悪しを評価する指標のこと。

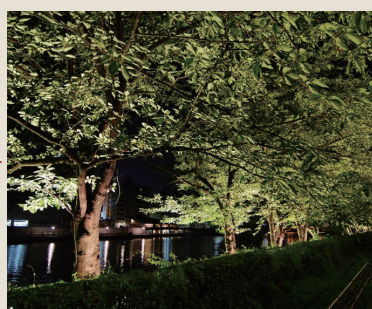
単位にはRa（アールエー）が用いられる。基準光で見た色の忠実さをRa 100（満点）として評価する。

演色性の基準

平均演色評価数 Ra 80 以上とする。



悪い例



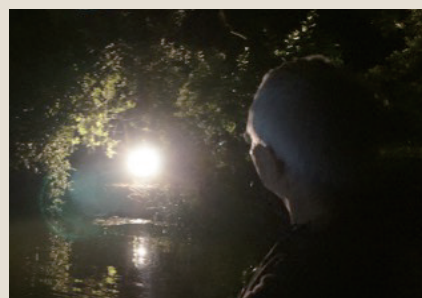
良い例

3 道、船等から見たまぶしさ（グレア）のない

快適な光環境をつくる。

グレアとは

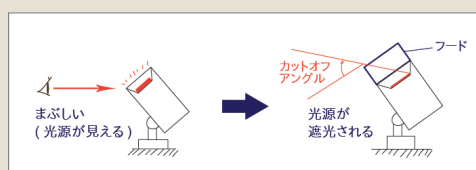
視野の中に極端に輝度が異なるものや光源が入ると、不快感を覚えたり、見えにくくなったりする。このような不要かつ不快なまぶしさのことをグレアという。



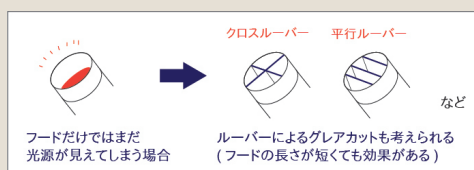
グレアの様子

「グレア」のない光環境のつくり方

- ・ 照明器具の光源の光が直接目に入らないように、光源の向き、グレアカットに配慮する。
- ・ 発光するタイプの照明は、目に優しい明るさとなるように輝度を抑える。



フードによるグレアカットの工夫（例）



ルーバーによるグレアカットの工夫（例）

4 点滅・動き・派手な色等の過度な演出のない

安心感のある光環境をつくる。

過度な演出

光源による色の見え方（再現性）の良し悪しを評価する点滅を伴う過度な演出の照明は、本基本計画が目指している落ち着いた雰囲気を損ねるため使用しない。

過度な動き

動きの激しい電光掲示板等は目立ちやすく、本基本計画が目指している落ち着いた雰囲気を損ねるため使用しない。

派手な色

派手な色の照明は、本基本計画が目指している落ち着いた雰囲気を損ねるため使用しない。



過度な演出の例

5 昼間の景観を損なうことがないように

照明器具を設置する。

配置

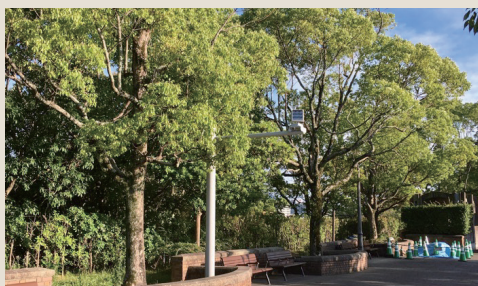
ライトアップ照明やブルボックス、配線等の機器は、昼間に目立つことがないように、できるだけ見えにくい位置を選択して設置する。

形態意匠

ライトアップ照明やブルボックス、配線、防犯灯、フットライト等の機器は、昼間に目立つことがないように、できるだけコンパクトな大きさ、シンプルな形状のものを選択して設置する。

色彩

ライトアップ照明やブルボックス、配線、防犯灯、街路灯、フットライト等の機器の色は、昼間に目立つことがないように、周囲の景観に合わせた色彩を選択して設置する。



シンプルな形態意匠、周囲と調和した色彩、目立ちにくい配置を選択したライトアップ照明の事例



シンプルな形態意匠、周囲と調和した色彩、目立ちにくい配置を選択したフットライトの事例

水路

ほうっほうつと蛍が飛ぶ・・・・・・・・・・
しとやかな柳河の水路を、
定紋つけた古い提灯が、ぼんやりと、
その舟の芝居もどりの家族を眠らす。

ほうっほうつと蛍が飛ぶ・・・・・・・・・・
あるかない月の夜に鳴く虫のこえ、
向ひあつた白壁の薄あかりに、
何かしら燐のやうなおそれがむせぶ。

ほうっほうつと蛍が飛ぶ・・・・・・・・・・
草のにはひする低い土橋を、
いくつか棹をかがめて通りすぎ、
ひそひそと話してる町の方へ。

ほうっほうつと蛍が飛ぶ・・・・・・・・・・
とある家のひたひたと光る汲水場に
ほんのり立った女の素肌
何を見ているのか、ふけた夜のこころに。

北原白秋「思ひ出」より

お問い合わせ

柳川市 建設部 都市計画課

TEL 0944-73-8111

E-mail machi-40207@city.yanagawa.lg.jp